

揺れやすさマップ

揺れやすさマップについて

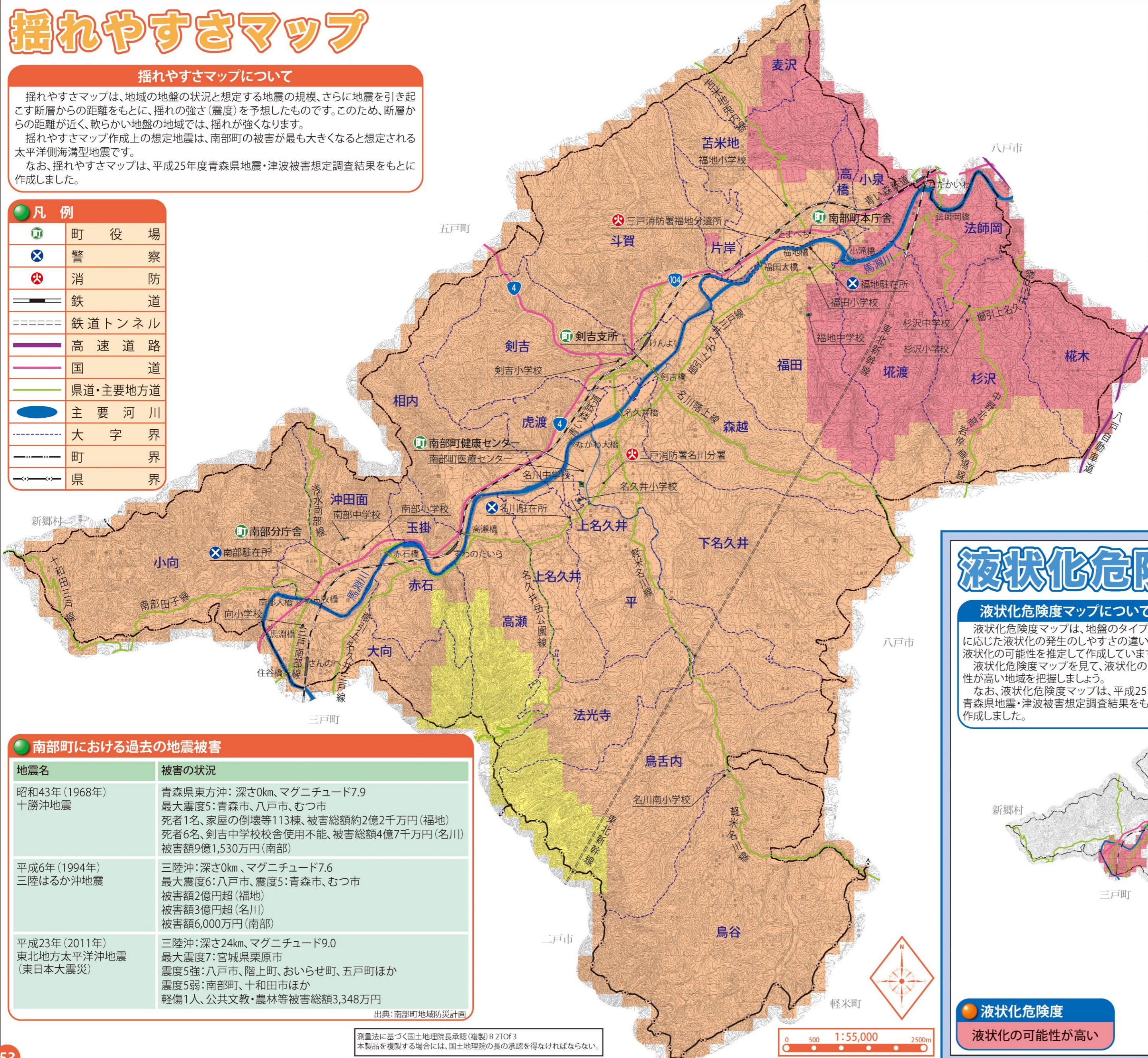
揺れやすさマップは、地域の地盤の状況と想定する地震の規模、さらに地震を引き起こす断層からの距離をもとに、揺れの強さ(震度)を予想したものです。このため、断層からの距離が近く、軟らかい地盤の地域では、揺れが強くなります。

揺れやすさマップ作成上の想定地震は、南部町の被害が最も大きくなると想定される太平洋側海溝型地震です。

なお、揺れやすさマップは、平成25年度青森県地震・津波被害想定調査結果をもとに作成しました。

凡例

	町役場
	警察
	消防
	鉄道
	鉄道トンネル
	高速道路
	国道
	県道・主要地方道
	主要河川
	大字界
	町界
	県界



想定地震、太平洋側海溝型地震について

地震の規模	モーメントマグニチュード9.0
地震の概要	1968年十勝沖地震及び平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の震源域を考慮し、青森県に最も大きな地震・津波の被害をもたらす震源モデル
南部町で予想される震度	東部の地域で震度6強 西部の狭い地域で震度5強 その他の多くの地域で震度6弱

※ 想定地震は、最新の科学的な知見をもとに想定したものです。しかし、実際に地震が発生した場合には、その震源や規模が想定と異なる場合があります。揺れの強さや被害量が想定を超える可能性があります。

震度

震度6強	
震度6弱	
震度5強	

南部町における過去の地震被害

地震名	被害の状況
昭和43年(1968年)十勝沖地震	青森県東方沖: 深さ0km、マグニチュード7.9 最大震度5: 青森市、八戸市、むつ市 死者1名、家屋の倒壊等113棟、被害総額約2億2千万円(福地) 死者6名、剣吉中学校校舎使用不能、被害総額4億7千万円(名川) 被害総額9億1,530万円(南部)
平成6年(1994年)三陸はるか沖地震	三陸沖: 深さ0km、マグニチュード7.6 最大震度6: 八戸市、震度5: 青森市、むつ市 被害総額2億円超(福地) 被害総額3億円超(名川) 被害総額6,000万円(南部)
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)	三陸沖: 深さ24km、マグニチュード9.0 最大震度7: 宮城県栗原市 震度5強: 八戸市、階上町、おいらせ町、五戸町ほか 震度5弱: 南部町、十和田市ほか 軽傷1人、公共文教・農林等被害総額3,348万円

出典: 南部町地域防災計画

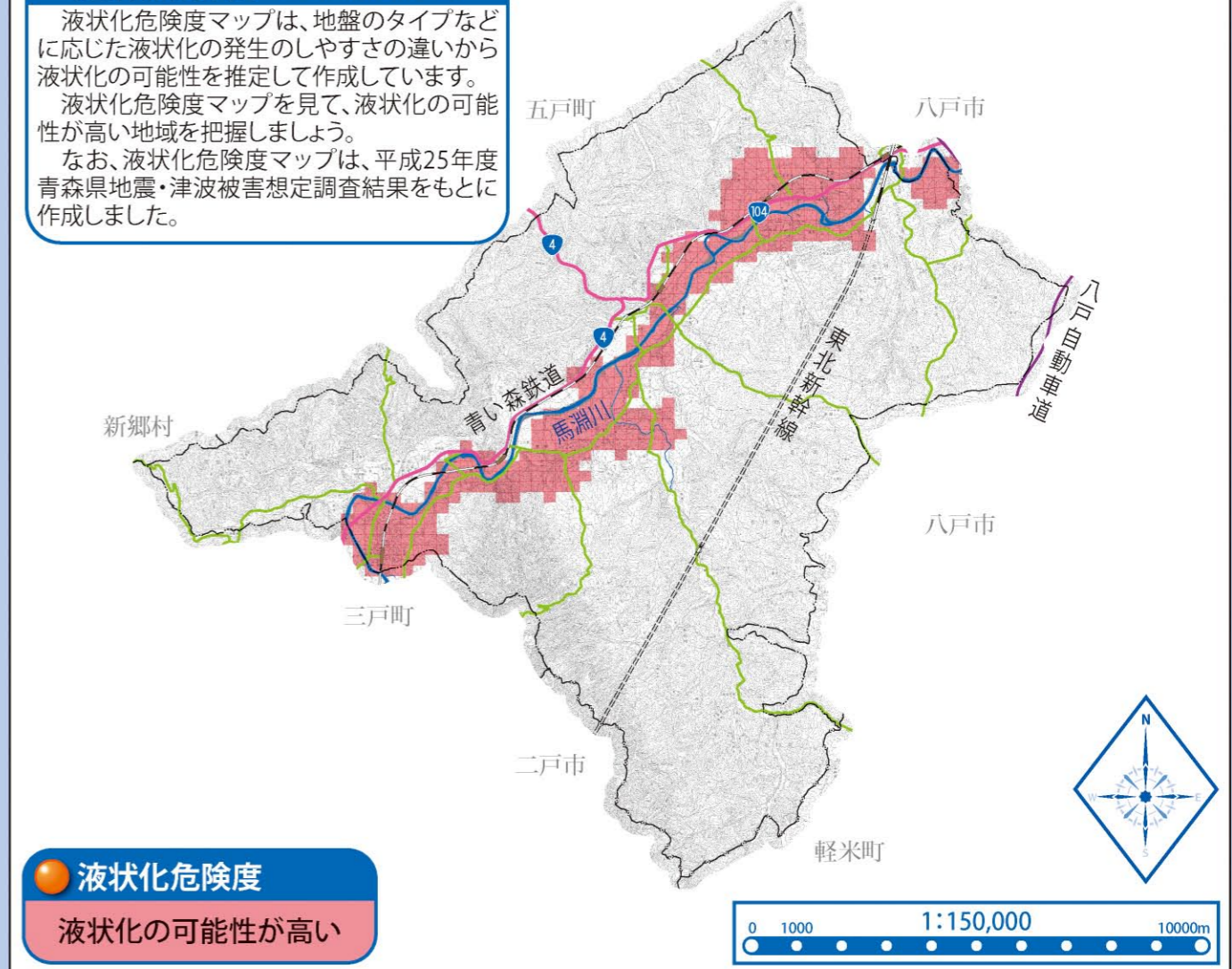
液状化危険度マップ

液状化危険度マップについて

液状化危険度マップは、地盤のタイプなどに応じた液状化の発生のしやすさの違いから液状化の可能性を推定して作成しています。

液状化危険度マップを見て、液状化の可能性が高い地域を把握しましょう。

なお、液状化危険度マップは、平成25年度青森県地震・津波被害想定調査結果をもとに作成しました。



液状化危険度
液状化の可能性が高い

測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R2TOF3
本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

地域の危険度マップ(南部地区)

凡例

	指定避難所兼指定緊急避難場所
	福祉避難所
	その他の避難場所
	町役場
	警察
	消防
	病院
	鉄道
	鉄道トンネル
	高速道路
	国道
	県道・主要地方道
	主要河川
	大字境界
	町境界
	県境界

地域の危険度マップについて

地域の危険度マップは、53ページ、54ページの揺れやすさマップに示す震度となった場合の建物の被害率を7段階で示した地図です。被害率は、震度が強い地域ほど、古い建物が多い地域ほど高くなります。

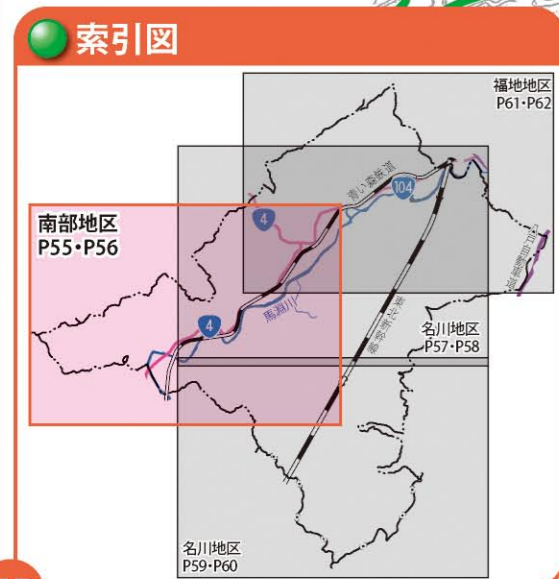
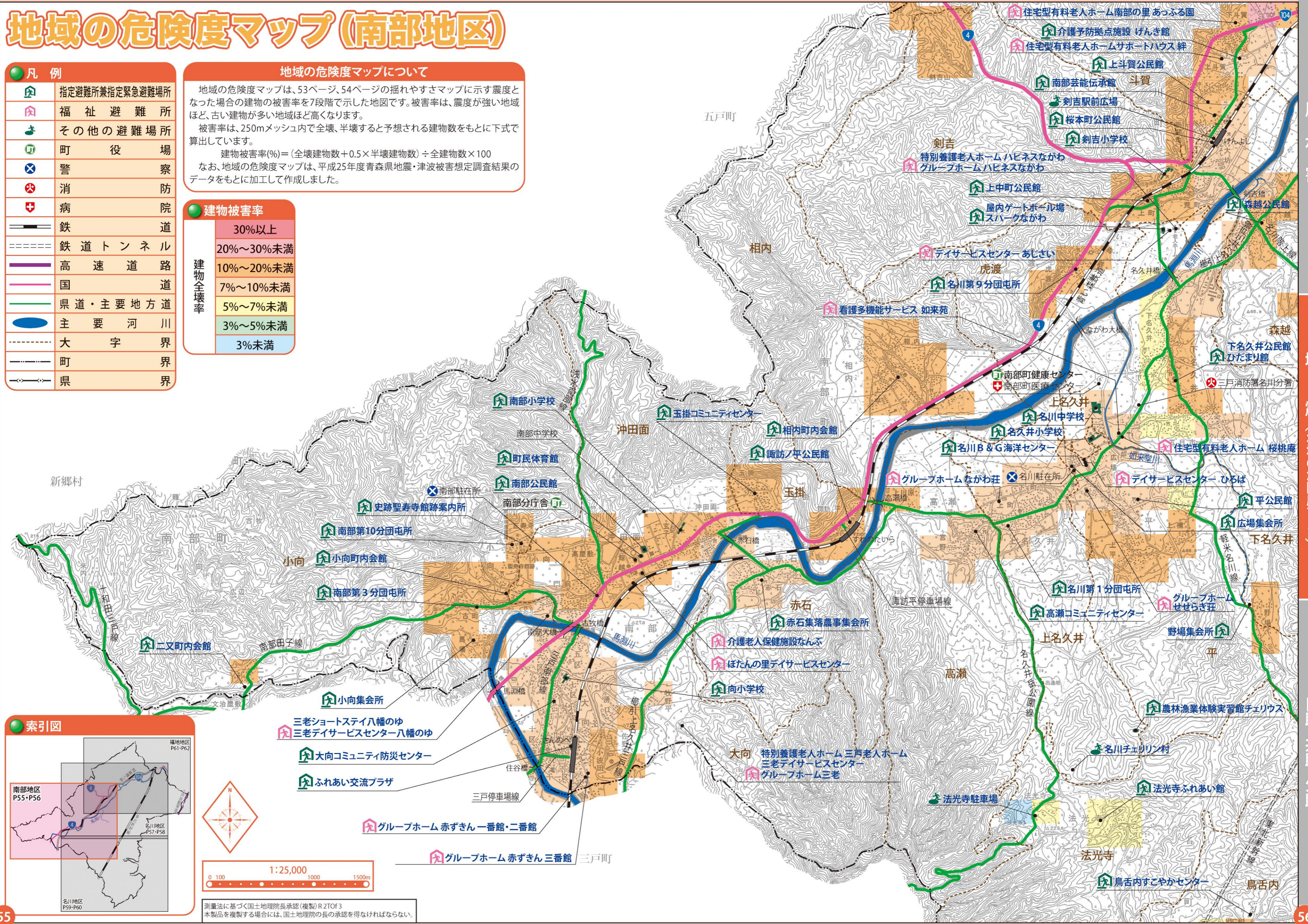
被害率は、250mメッシュ内で全壊、半壊すると予想される建物数をもとに下式で算出しています。

建物被害率(%) = (全壊建物数 + 0.5 × 半壊建物数) ÷ 全建物数 × 100

なお、地域の危険度マップは、平成25年度青森県地震・津波被害想定調査結果のデータをもとに加工して作成しました。

建物被害率

30%以上
20%~30%未満
10%~20%未満
7%~10%未満
5%~7%未満
3%~5%未満
3%未満



測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R2T0F3
本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

風水害

地震(地域の危険度マップ)

自助・共助・公助

地域の危険度マップ(名川地区)

地域の危険度マップについて

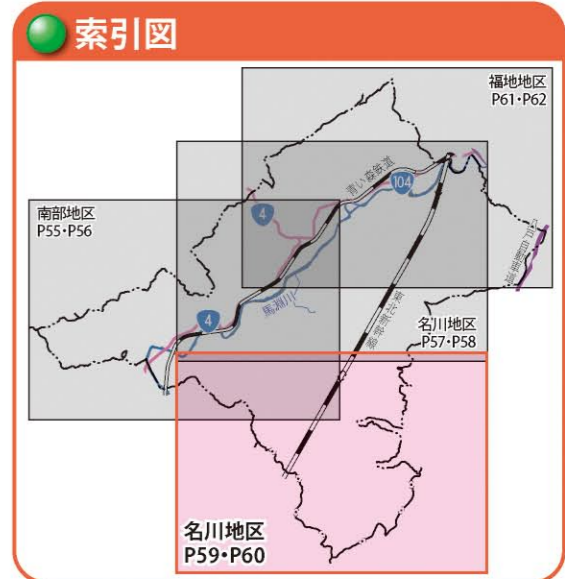
地域の危険度マップは、53ページ、54ページの揺れやすさマップに示す震度となった場合の建物の被害率を7段階で示した地図です。被害率は、震度が強い地域ほど、古い建物が多い地域ほど高くなります。被害率は、250mメッシュ内で全壊、半壊すると予想される建物数をもとに下式で算出しています。

$$\text{建物被害率(\%)} = (\text{全壊建物数} + 0.5 \times \text{半壊建物数}) \div \text{全建物数} \times 100$$

なお、地域の危険度マップは、平成25年度青森県地震・津波被害想定調査結果のデータをもとに加工して作成しました。

建物被害率

建物全壊率	30%以上
	20%~30%未満
	10%~20%未満
	7%~10%未満
	5%~7%未満
	3%~5%未満
	3%未満



凡例

	指定避難所兼指定緊急避難場所
	福祉避難所
	その他の避難場所
	町役場
	警察
	消防
	鉄道
	鉄道トンネル
	高速道路
	国道
	県道・主要地方道
	主要河川
	大字界
	町界
	県界

震度に応じた揺れ方の状況

下図に震度ごとに想定される人への体感、屋内外の状況、建物などへの影響を示しています。

【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

【震度5強】

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

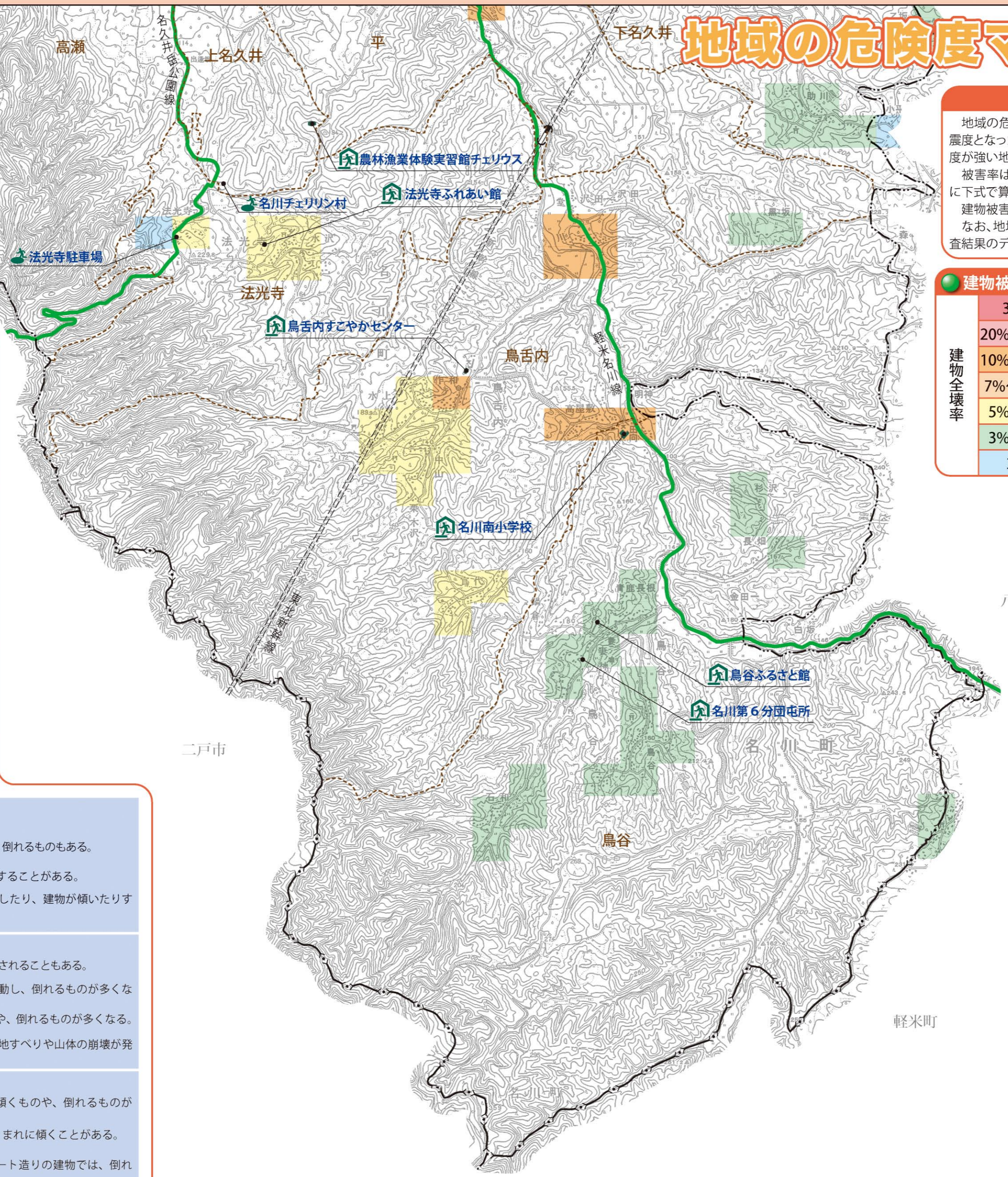
【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造りの建物では、倒れるものが増える。

※気象庁の資料を参考にして作成



測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R 2Tof 3
本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

地域の危険度マップ(福地地区)

凡例	
	指定避難所兼指定緊急避難場所
	福祉避難所
	その他の避難場所
	町役場
	警察
	消防
	鉄道
	鉄道トンネル
	高速道路
	国道
	県道・主要地方道
	主要河川
	大字界
	町界
	県界

建物被害率	
	30%以上
	20%~30%未満
	10%~20%未満
	7%~10%未満
	5%~7%未満
	3%~5%未満
	3%未満

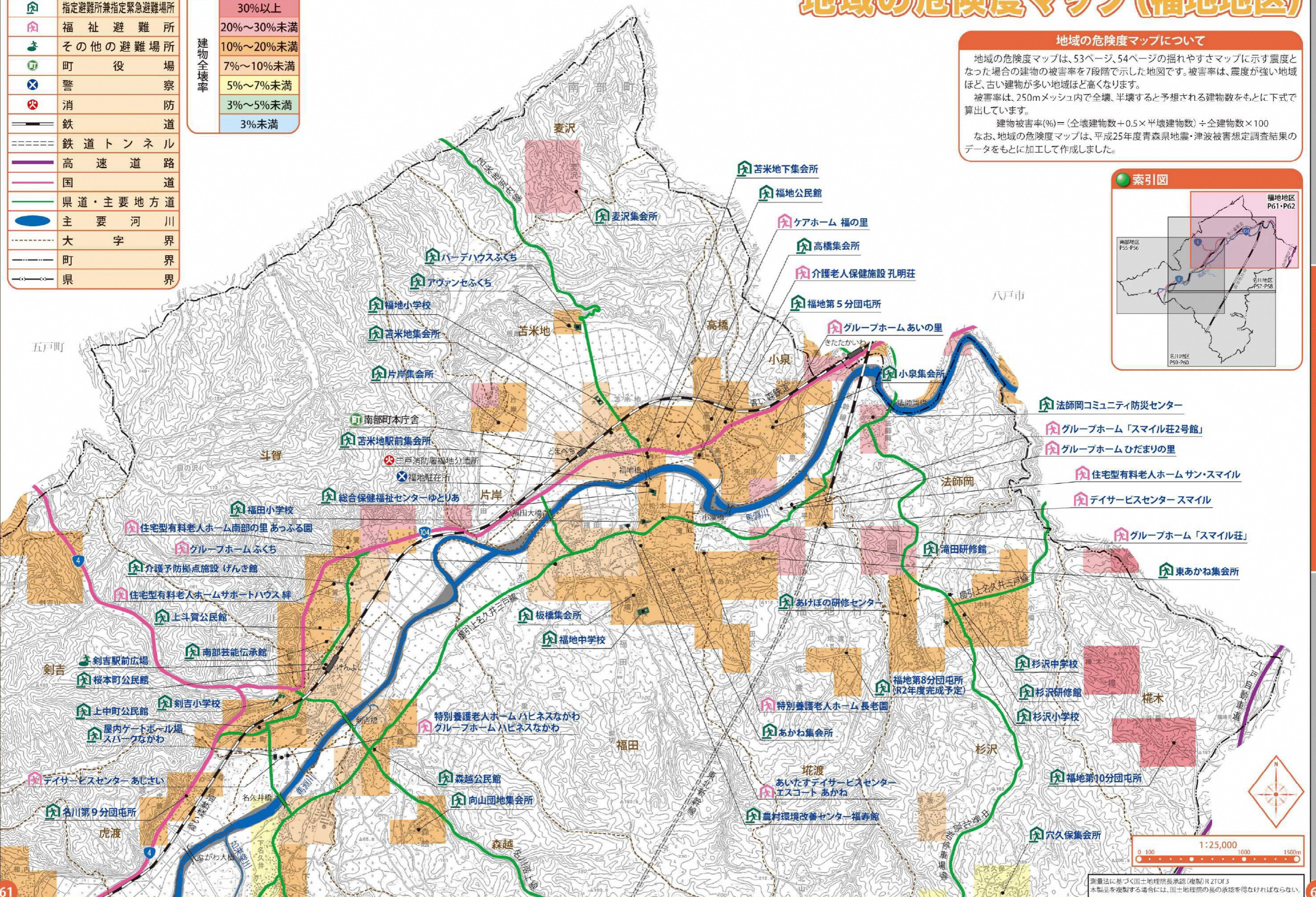
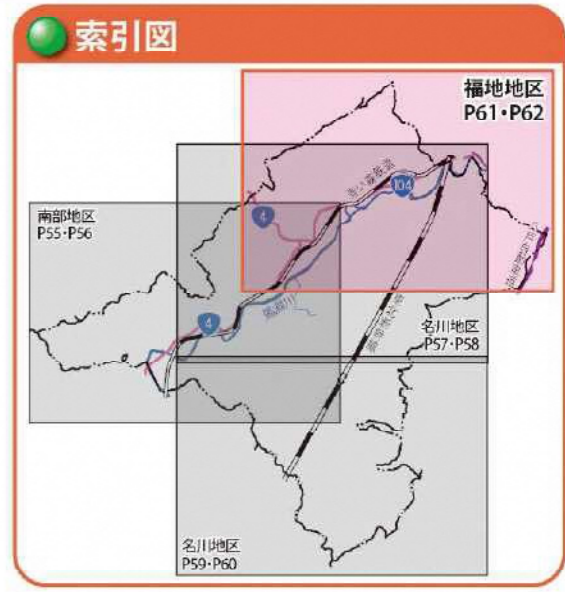
地域の危険度マップについて

地域の危険度マップは、53ページ、54ページの揺れやすさマップに示す震度となった場合の建物の被害率を7段階で示した地図です。被害率は、震度が強い地域ほど、古い建物が多い地域ほど高くなります。

被害率は、250mメッシュ内で全壊、半壊すると予想される建物数をもとに下式で算出しています。

$$\text{建物被害率(\%)} = (\text{全壊建物数} + 0.5 \times \text{半壊建物数}) \div \text{全建物数} \times 100$$

なお、地域の危険度マップは、平成25年度青森県地震・津波被害想定調査結果のデータをもとに加工して作成しました。



- 法師岡コミュニティ防災センター
- グループホーム「スマイル荘2号館」
- グループホームひだまりの里
- 住宅型有料老人ホームサン・スマイル
- デイサービスセンタースマイル
- グループホーム「スマイル荘」
- 東あかね集会所
- 滝田研修館
- あけぼの研修センター
- 福地中学校
- 福地第8分団屯所 (R2年度完成予定)
- 特別養護老人ホーム長老園
- あかね集会所
- あいたすデイサービスセンター エスコート あかね
- 農村環境改善センター福寿館
- 福地第10分団屯所
- 六久保集会所
- 杉沢中学校
- 杉沢研修館
- 杉沢小学校



測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R2Tof3
本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

地震対策

地震に備えて

地震発生時には、ケガなどで避難できない状況にならないことが重要です。地震による死亡やケガの原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒によるものであり、阪神・淡路大震災での死因の約8割を占めていました。家具等の転倒・落下による被害は、事前の対策で軽減することができます。地震に強い家づくりに努めましょう。

● 家具の配置のポイント

- つっかえ棒
- 飛散防止フィルム
- 屏ストップャー
- 家具で固定
- 大きな家具は壁には置かない
- 重いものは下へ

● 我が家とその周辺の点検と対策

- 屋根
屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。
- 耐震診断
専門家にチェックしてもらおう。
- プロパンガス
ボンベを鎖で固定しておく。
- 窓ガラス
飛散防止フィルムを貼る。
- ベランダ
植木鉢などを整理する。落ちる危険がある場所には何も置かない。
- ブロック塀
土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

● 家具を固定して転倒を防ごう

<h4>ベルト式器具・チェーン式器具</h4> <p>壁と家具を金具や付属のフックを使ってベルトやチェーンで固定する。</p>	<h4>L型金具</h4> <p>金属で壁と家具を直接固定する。壁の棧や鴨居などにしっかりと固定する。</p>	<h4>ボール式器具(つっかえ棒)</h4> <p>家具と天井の隙間に設置する。隙間が少なく、奥行きのある家具でなければ効果がない。</p>	<h4>ストップャー式器具・マット式器具</h4> <p>家具の前面下部に取り付けるストップャーや、家具の底部と床を粘着させるゲル状のものを設置する。</p>	<h4>その他</h4> <p>開き扉にはストップャー、扉のない収納器具にはビン落下防止具を設置して、棚などからの収納物の飛び出しを防ぎましょう。</p>
---	---	--	---	---

日本建築防災協会が、木造住宅の耐震診断・耐震改修を推進するため、簡単にできる診断法として、「誰でもできるわが家の耐震診断」を作成しています。このプログラムを使用して、わが家の地震に対する強さをチェックしてください。詳しくは、次のホームページをご覧ください。http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wagayare/taisin_flash.html

地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず、周囲に知らせ、小さい火事のうちに早く消し、天井まで火が燃え広がったら逃げましょう。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

● 消火器がない場合の火元別初期消火方法

<h4>油なべ</h4> <p>水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをぬらして、火の手前からなべ全体にかぶせ、空気を遮断します。</p>	<h4>石油ストーブ</h4> <p>上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたら毛布で覆ってから水をかけます。</p>	<h4>衣類</h4> <p>転げまわって火を消します。髪の毛の場合は、頭からタオルなどの布をかぶります。</p>
<h4>電気製品</h4> <p>感電しないように、コンセントを抜いてから消火します。</p>	<h4>カーテン・ふすま</h4> <p>天井に火が燃え広がる前に、水や消火器で消します。また、カーテンは引きちぎり、ふすまは倒して消火します。</p>	<h4>風呂場(ガス式)</h4> <p>ガスの元栓を閉め、火の勢いが強くならないように扉を徐々に開けて消火します。</p>

地震発生時の行動の目安

地震から身を守る

大きな地震が発生したときは、まずは身の安全を確保し、慌てず冷静に行動しましょう。

地震発生 1~2分後 3分後 5分後 10分後 ~3目程度 避難生活では	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲の状況に応じて、慌てずに身の安全を確保する。 ● 揺れがおさまったら火の元を確認し、出火している場合は初期消火をする。 ● 靴を履き、ガラス片などから足を守る。 ● 非常持出品を手元に用意する。 ● テレビ、ラジオなどで状況を確認する。 ● 家屋倒壊などのおそれがある場合には避難する。 ● 海岸にいるときに強い地震が発生した場合や、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ、急いで安全な場所に避難する。 ● 家族の安否を確認する。 ● 近所の安全を確認する。 ● 必要に応じて、消火・救出活動に協力する。 ● 生活必需品は備蓄でまかなう。 ● 壊れた家には入らない。 ● 引き続き余震に警戒する。 ● 自主防災組織を中心に行動する。 ● 集団生活のルールを守る。 ● 助け合いの心をもって行動する。
---	--



こんな場所で地震にあったら

<h3>● 室内にいるとき</h3>	<h4>就寝中</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 暗闇では、ガラスの破片などに注意する。 ● 懐中電灯やラジオ、スリッパなどを枕元に常備する。 	<h4>風呂・トイレ</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 入浴中は、鏡やガラスの落下に注意する。 ● 浴槽の中では、風呂のふたをかぶって頭を守る。 ● トイレでは、水タンクの落下に注意する。
<h4>台所</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● ガスコンロの火を止める。 ● 食器棚や冷蔵庫などの転倒と収納物の飛び出しに注意する。 ● 包丁など刃物の落下に注意する。 	<h4>学校</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 教室では、机の下にもぐる。 ● 廊下、体育館、運動場では、中央部でしゃがむ。 ● 勝手に帰宅せず、先生の指示に従う。 	
<h3>● 屋外にいるとき</h3>	<h4>外出しているとき</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● ブロック塀、電柱、自動販売機など転倒のおそれがあるものから離れる。 ● 繁華街では、看板や割れたガラスの落下に注意する。 ● スーパーなどでは、陳列棚から離れ、頭を保護し、係員の指示に従う。 	<h4>電車やバス</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 座っているときは、低い姿勢をとり、手荷物で頭を保護する。 ● 立っているときは、つり革や手すりにしっかりとつかまる。 ● 乗務員の指示に従う。
<h4>車を運転中</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 急ブレーキをかけない。 ● ハンドルをしっかりと握り、慌てずゆっくりと減速し、道路の左側に停車する。 ● エンジンを切り、ラジオで情報を収集する。 ● キーはつけたままで、ドアはロックしないで避難する。 ● 車検証など貴重品を持ち出すとともに、ダッシュボードなどに連絡先のメモを置いておく。 		

避難時の注意点

避難時は、余震に注意し、ケガをしないように落ち着いて避難しましょう。

<h4>火の元の確認</h4> <p>避難する前にもう一度、火の元を確認し、電気のブレーカーを落としましょう。</p>	<h4>安全な服装で避難</h4> <p>長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。</p>	<h4>足下に注意</h4> <p>地震により壊れた電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などが道路に散乱している可能性があります。</p>
<h4>階段から避難</h4> <p>避難時はエレベーターを利用せず階段から避難しましょう。</p>	<h4>山崩れ、がけ崩れに注意</h4> <p>山間部で地震を感じたら、早めに避難体制を整えましょう。</p>	<h4>安否情報を知らせる</h4> <p>玄関に安否情報を記したメモを張りましょう。</p>